

# JSCE2005

## 土木学会の改革策

### 社会への貢献と連携機能の充実

はしがき

目次

#### 第 編 本編

1 . JSCE2005 検討の背景 -----	1
2 . これまでの学会改革の動き -----	3
2.1 土木学会改革の動き -----	3
2.1.1 岐路に立つ土木と土木学会の新たな途 (1986 年) -----	4
2.1.2 JSCE2000 - 土木学会の改革策 (1998 年) -----	4
2.1.3 2000 年レポート - 土木界の課題と目指すべき方向 (2000 年) ---	5
2.2 JSCE2000 以降の改革の位置付け -----	7
2.2.1 学会の活動対象 -----	7
2.2.2 システム改革とテーマ改革 -----	7
2.2.3 JSCE2000 以降の改革の方向性 -----	8
2.2.4 JSCE2000 策定後の各部門の活動 -----	10
3 . 問題解決能力を持った学会への転換を目指して -----	15
3.1 土木学会の使命と長期目標 -----	15
3.1.1 土木学会の使命 -----	15
3.1.2 土木学会の機能と長期目標 -----	16
3.2 問題解決能力の向上 -----	19
3.2.1 土木学会の活動の特徴 -----	19
3.2.2 土木学会が強化すべき主な役割 -----	19
3.3 社会の信頼を得るコミュニケーション機能の構築 -----	22
3.3.1 社会に貢献するコミュニケーション機能 -----	22
3.3.2 三つの連携 -----	25
4 . 土木学会の新組織と機能 -----	27
4.1 新しい学会組織 -----	27
4.1.1 企画運営連絡会議の活動強化 -----	27

4.1.2	企画戦略グループ	27
4.1.3	学術研究グループ	28
4.1.4	組織運営グループ	29
4.1.5	支部機能の強化	29
4.1.6	技術推進機構の発展支援	29
4.1.7	内部組織の変更とその構成案	30
4.1.8	組織変更スケジュール	30
4.1.9	事務局組織の変更	30
4.2	経営管理システムの導入	32
4.2.1	目標設定と評価機能	32
4.2.2	マネジメントサイクルによる改善	32
4.2.3	カスタマーの視点からの評価	34
5	継続的な改革に向けて	35
5.1	問題認識	35
5.2	処方箋	35
5.3	マクロ土木工学の提唱	35
5.4	自律的改革	36
5.5	カスタマーズサティスファクション	36
5.6	改革スケジュール	36

## 第II編 改革のためのアクションプラン

1	学術・技術進歩への貢献	37
a)	学術・技術の先端性	37
b)	学術・技術の事業への展開性	41
c)	技術蓄積・移転性	44
2	会員資質とCSの向上	47
d)	会員教育制度	47
e)	情報取得機会の拡大	51
f)	会員の維持・多様性確保	52
3	国内・国際社会に対する責任・活動	54
g)	公正・中立な立場からの専門的知見の提供	54
h)	国際貢献	57
i)	コミュニケーション機能	60

## 第 編 補遺

1 . 従来の改革案の概要 -----	62
2.1 JSCE2000 ( 1998 年 ) の概要 -----	62
2.2 2000 年レポート ( 2000 年 ) の概要 -----	63
2 . 三つの連携に関わる今後の検討事項-「三つの連携による組織改革の方向性」 -----	64
3 . 問題解決型学会に必要なコミュニケーション機能 -----	66
4 . 内部システム運用上の注意事項 -----	68
1.1 . 予算執行を、より一層適正に行う-----	68
1.2 . 新しい環境への対応-----	68

第 編 JSCE2000 自己評価( 部門別 )-----	69
-------------------------------	----

第 編 JSCE2005 活動目標と計画( 部門別 )-----	106
----------------------------------	-----

第 編 JSCE2005 活動目標と計画( 調査研究部門の委員会別 )-----	124
--	-----

付 ) JSCE2005 検討経緯

あとがき